

「私の慰霊の日」

古堅南小 六年三組 大湾 有花

私たちは、毎年家族で平和の礎とひめゆりの塔へ行きます。ひいおじいさんの時から続いているそうです。今年もこの季節がやって来ました。

今年は、ひめゆりの塔へ行きました。今回は、六年生で平和について考える学びを経験したので前回より意識して見学しました。

ひめゆり資料館には、私のおじいちゃんのお姉さんの当時の様子が記録として残っています。ひめゆり学徒・看護学生となり、六月十九日米軍のがス弾で十九才という若さで亡くなりました。敏子おばあさんは、習字がとても上手で東京の展示会に出すほどの力をもっていました。そのころ東京展示会への出品は、師はん学校で優秀な作品しか出せなかつたそうです。私は、そのことを聞いて、とてもおどろきました。

資料館の中には戦争時に使われていた看護



生の注射器などの道具やもんぺの制服や防空頭巾などがありました。一番心に残ったのは二百人余りの亡くなった方々の写真でした。その部屋に入った時、空気に重みを感じました。その部屋には、戦時中の苦しみが伊原のがまにしみついていて思うように思いました。こんなにくさんの女学生が亡くなってることを知り、とてもショックでした。

一九四四年十月十日には集中的に那覇に空しゅうがありました。読谷村でも飛行場があったため空しゅうに合いました。その時まで沖縄の人々は日本が戦争に勝つと思いにげようとしませんでした。次の年の四月一日、千五百せきの軍かんのかん砲射げきを受け半年にもおよぶ長い地上戦が始まりました。これが沖縄戦です。亡くなった人は県民の四人に一人だと言われるほどの人々が亡くなりました。た。

今、私たちの国は平和です。なぜかという、あの悲さんな戦争が終わった一九四六年



の国会で「二度と争いはしない」と日本国憲法をつくったからです。それを七十二年間大切に守り続けたので今の平和な世の中があると思います。

けれど沖縄では、戦争を引きずっているかのように今でも基地が目の前にあります。ツエット機やヘリコプターの騒音が鳴りひびいています。また、オスプレイが海上に落ちたり、女性に対する暴行事件などもおこっています。特に、辺野古では戦争を体験したおじ

いさんおばあさんが、暑い中、雨の日も毎日新しい基地を造らせないように反対運動をしています。沖縄戦を経験した高齢者の方々はあのおそろしい戦争をくり返さないためにも二度と子や孫が苦しまないようにすわりこみなどをしてたたかっています。

私の国が平和であるためには、戦争の準備をするよりも、となりの国とも遠い国とも強い絆を結んでいくほうがいいと思います。また、学校での生活のことを考えると、友達の



気持ちなどを考え、わかり合おう努力をする中でケンカをしても仲直りする、広い心の輪を深めていきたいです。

最後に、習字が上手だった敏子おばあさんのように、私も一生けん命努力して、沖繩一になりたいです。